

女性救急救命士インタビュー

蓮田市消防署

第1 救急係

係長 吉澤 ^{あゆみ} 斐弓さん



消防吏員を目指したきっかけ

もともとは教員になって命の大切さを子どもたちに教えたいと考えており、大学では中学校教員免許を取得しました。しかし就職活動中、命の大切さをもっと身近に伝えたり、携われる職業はないかと考え、警察や消防の話も聞く機会を増やしました。

その中で、「命を守る仕事はこれではないか」と方針転換し消防吏員を志すようになりました。

救急救命士を目指した理由



入職後、消防本部の業務全体を見る中で、「救急業務なら女性としての強みを活かせる」と感じたことがきっかけでした。

また、中学・高校時代にハンドボール部で培ったチームワーク精神も、救急救命士という職業への挑戦を後押ししました。

キャリアの歩み

平成 21 年 7 月 : 蓮田市消防本部に入職。最初は消防係に配属
平成 23～24 年度 : 予防係に配属
平成 25 年度～ : 救急係に配属
平成 29 年度 : 埼玉県消防学校救急救命士養成課程第 19 期入校
平成 30 年度 : 救急救命士資格取得
令和 7 年度 : 埼玉県消防学校指導救命士養成研修入校
現在に至る

女性の配属先が限られている中、男女関係なく現場での仕事をするために救急隊を志望しました。JPTEC プロバイダーなどの現場で役立つ資格を取得し、希望を実現するために努力しました。

日々の業務内容

月 30～40 回の現場出動に加え、統計や調査業務、救急月報の作成、さらに予算編成業務も担当しています。また、7 人の後輩指導にも力を入れ、指導救命士として職場全体のスキル向上や地域課題の解決に努めています。

やりがいを感じる瞬間

どの現場でも、傷病者やご家族から感謝の言葉をいただいたときが一番うれしいですね。その瞬間に、この仕事をしていてよかったと心から思います。

困難なことやそれを乗り越える工夫

傷病者やご家族、医療関係者のタイプに応じた接遇が難しいです。
そのため、職場外の研修に参加したり、普段からコミュニケーションスキルを磨くことで、課題を克服してきました。



女性救急救命士としての強みと課題

女性や子供、高齢の傷病者に対し、寄り添った対応ができる点を強みと感じています。また、女性特有の疾患に丁寧に対応できることも、女性救急救命士ならではの強みと考えています。

一方で、体力面での課題も感じており、大柄な傷病者や威圧的な傷病者への対応には苦勞することもあります。

女性救急救命士を増やすためにはどのような取組が必要と考えますか

まずは働きやすい環境を整備することが大切だと思います。子育て中の職員にとって、24時間シフトの勤務体制は大きな負担です。柔軟な勤務シフトや育休後の復帰プログラムが整備されることで、女性ならではのライフイベントに対応した働き方ができるようになると考えています。女性が安心して働ける環境が、結果的に多くの女性救急救命士の活躍につながると感じます。



今後の目標

指導救命士になりましたので、部内教育にも力を入れていきたいです。また、女性救急救命士を増やすための取組にも積極的に携わりたいと思っています。同じ志を持つ後輩たちが働きやすい環境を作ることが、私自身の役割だと思っています。

救急救命士を目指す女性へのアドバイスをお願いします

救急救命士は命を守る非常にやりがいのある仕事です。責任は重いですが、その分達成感も大きいです。ライフイベントを怖がらず挑戦してください。最終的には救急救命士になりたいという自身の気持ちを持ち続けられるかです。信念を持って、夢を叶えてほしいと思います。